

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1293600027		
法人名	特定非営利活動法人 秋桜		
事業所名	グループホーム うさぎの家		
所在地	千葉県印西市小林1644番地1		
自己評価作成日	平成25年1月15日	評価結果市町村受理日	平成25年4月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生1107-7		
訪問調査日	平成25年2月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者個人の意思を尊重し、助け合いの精神の基に質の高い介護サービスを提供し、安心して楽しく生活出来るような支援と、ホーム独自に「笑」という理念を新しく作り、実践に繋げている。「我が家」で自由に生活しているのと同じように睡眠・食事・入浴の時間を出来る限り本人の要望に沿った生活が送れるようにしている。
今まで自宅で行っていた日課や趣味が続けられるようにしたり、御自分で体を動かさない方はスキップを兼ね、リハビリ・マッサージを行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は常に利用者本位を心がけている。アセスメント・介護計画作成・モニタリングの一連の流れを担当職員がやってみる取り組みや、避難訓練を年16回行い、職員一人ひとりが最低でも年3回は避難訓練に参加するなど、新しいことにチャレンジし、それを定着させることに労を惜しまない様子を確認できた。すでに地域の中では認知症の情報発信基地として中核を成し、行政や地域との連携もさまざまな場面で実現している。家族からの信頼は厚く、今回の家族アンケートも全員から回答が届き、日々の支援に対する感謝の言葉が寄せられている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	表玄関・勝手口・スタッフルームに理念を掲示し、それに基づき事業計画を作成している。また、理念に基づいたケアが実践できるように会議で見直しを行い、全職員で共有出来るように取り組んでいる。	理念は掲示や会議などで全職員が共有できるよう取り組んでいる。また、理念に基づいた事業所の抱負を毎年事業計画に掲げており、昨年度の「絆」と連動できるよう今年度は「リバイバル(再生・再始動)」として、これまでの活動を見直そうとしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りや行事に積極的に参加したり、近くの保育園と1回/月交流している。地域の方が野菜を届けて下さったり買い物に利用しているスーパーの店員さんと馴染みの関係を築き、親切にして頂いている。	保育園・小中学生との関わりや、地域の祭り・イベントなどの行事とともに野菜の差し入れなど日常の交流が続いている。この交流が利用者の安全につながるものとして、災害時に協力してくれる家の把握に努め、地図に記入している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民向けの認知症講座を開催したり、劇団を発足し小中学生向けに劇で認知症の人の理解してもらえるよう働きかけを行っている。ホームは相談対応や見学の受け入れを積極的に行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者、市の職員、民生委員、町内会、老人会、家族代表の多方面の委員により、2ヶ月に1回開催。 活動報告、意見交換からサービス向上に活かしている。	年間計画の中で日程を決めたり、行事に引き続き開催するなどの工夫により、隔月の開催を定例化し、多岐にわたる出席者を確保している。法人の現状がよく伝わり、質問や意見も活発に出ているが、3事業所合同開催のため、法人中心の会議内容が多く、家族の参加メンバーが固定化している。	計画的に運営しているが、更なる質の向上のために、家族等への議事録送付やグループホーム単独開催など、運営推進会議への家族参加を増やす工夫があるとよいと思われる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の介護相談員が1回/月来訪している。運営推進会議にも市の職員や介護相談員に参加して頂き、実情を報告している。	月1回の介護相談員の受け入れ、ごみゼロ運動への参加、認知症サポーター養成講座の講師受託、小中学生向けの(認知症周知目的)劇団活動など、運営推進会議以外でも協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束・抑制をしない事が当たり前と認識し、実践している。法人内の研修において、具体的な行為も正しく理解している。日頃のケアの中で拘束にあたる可能性のあるものは話し合い取り組んでいる。	身体拘束については常に意識しながら、支援を行うようにしている。研修で取り上げるだけでなく、日頃の支援の中で気づいたことを注意し合っており、「待って」という言葉による拘束にも気を配っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃がされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を行い、常に注意を払い、その防止に努めている。 当法人のマニュアル委員の活動も積極的である。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は制度について研修を通じて学ぶ機会があり、必要な方には活用出来る様支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は管理者が書類を用い、十分に御説明させて頂き、不安や疑問なく御納得頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からの発言は、殆どみられないが、声なき声を傾聴する様努めている。ご家族からのご意見・苦情は随時受けられるようになっており、その内容については会議で周知徹底し、常に改善を図っている。	年2回の家族会では、家族だけで話し合う時間を作ったり、家族の連絡網作成、家族アンケートの実施など、本音を言える環境を整えている。ふだんから来訪時や電話の際に意見を聞くように努めており、飲茶パーティーを実施するなどしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談・スタッフ会議・管理者会議・総会にて、現場の意見を聞いたり、互いの課題を見い出す機会がある。	管理者は「働きやすい職場」を目指している。そのため、個人面談や会議等で出た意見・要望を反映できるよう努めている。勤務のシフトに柔軟に対応したり、利用者が落ち着かない時間帯に職員配置を厚くするなどしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者や職員の意見や提案に耳を傾け、常に職員の働き易い環境をと心を配り、職場環境・雇用条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々のスキルを見定め、段階に合わせた講習・研修に参加出来る機会を設けている。法人内の研修は月1回開催している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームの行事に参加させて頂いたり、地域ケア会議・キャラバンメイトの打合せ等にて、地域の同業者との情報交換を通じてネットワークをサービスに活かしている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入時、本人から要望や不安要素を極め細やかに聴き、全職員に周知。統一した安心できるサービスを提供出来る様努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族にも要望等をシートに記入して頂き、職員が聞き取ったシートと合わせ入居者の安心が確保出来るように努めている。また、家族と密に連絡を取り不安要素を取り除いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	会話の中で、支援が必要な内容を共に考え、またスタッフ会議にて検討を重ね、よりよいサービスを提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	センター方式を活用し、御本人主体の暮らしを重視してケアを行っている。 役割を持ったり、得意な事を生活に取り入れ、共に暮らす喜びを感じて頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御利用者の心身の状態を、機会の度把握して頂き、不安や相談に耳を傾け、その解消に共に取り組み、関係作りに努めている。また食事会や行事を企画したり大掃除にも積極的に参加頂き共に御本人を支えて頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間は特に設定せず、いつでも来訪出来る。 御家族は勿論、御友人の来訪もあり、正月・お盆・仏事等、一時帰宅等も支援している。 また電話を掛けたい要望があれば、電話出来るよう支援も行っている。	「要望はかなえる」ことを目標に取り組んでいる。 結婚式や法事への参列、孫に会いたいなどの要望をかなえるために、家族とも協力して準備や調整を行うこともある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	御利用者同士が良好に関わり合える場面を作り出すお手伝いを常にしている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	その後の様子や生活に気を掛け、折りに触れ手紙のやり取りやお話できる機会を大事にしている。退所後も家族会に在籍して下さる御家族も多い。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	サービス終了後も来訪されたり、研修資料作成にも積極的にご協力頂いている。また家族会に残り、イベントやボランティアにも御協力いただいている。	利用者との関わりを業務としてではなく、思いやりの心を持ち、相手の立場に立って接するように心がけ、思いを汲み取っている。利用者の発した言葉の裏の隠された思いも理解して、ケアプランに反映させている。困難な人は、表情や視線、過去の情報や元気だった頃を思い出して検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御一人御一人の嗜好を把握し、都度御本人が望むサービスが提供できるよう努めている。またサービス内容は常にスタッフ会議にて検討見直しを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	御本人や御家族から職歴や生活歴をお聞きし、本人馴染みの環境となるよう努めている。また、以前利用されていたサービス業者からも情報収集し把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式を用い、収集した情報をスタッフ間で共有し、よりよい介護を目指すため担当者が1回/月モニタリングを行い介護計画に反映。全職員で確認を行ったうえで御本人・御家族にご説明を行っている。	毎月のサービス担当者ケア会議で利用者全員のモニタリングを行い、ケアプランに反映させている。現状をしっかりと把握出来るようにと、全職員に「センター方式」という様式を継続して記入してもらう試みを始め、成果が出てきた。今後は全職員にケアプランを作成できる力を身に付けてもらうことを目指している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りファイルを医療・個人・その他(生活)に分けて細かい部分や小さな気づきを共有し活かせるよう努めている。必要に応じて、介護計画を見直し立て直す事も行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物・外食・会いたい方への支援等、希望するニーズの把握及び情報の共有を行い、御本人や御家族の希望に柔軟に対応できるような環境・関係づくり、職員体制に努めている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	デイサービスと共同で地域のゴミ拾いを行ったり地域のイベントに参加し顔馴染みの関係を作り、散歩の際はご近所の方にお声掛け頂き温かく見守って頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	24時間体制の訪問診療医と連携をとり状況に応じた適切な医療が受けられるよう支援を行っている。必要に応じて訪問デンタルや他医療機関とも連携をとっている。	9人中8人の人が月2回の訪問診療を受けており、毎月、医師から家族に報告されている。また、家族対応でホームの協力医療機関にかかっている人もいる。内科医以外の受診は家族と職員で協力して支援しており、必ず情報を共有するようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職は定期的に入居者の体調確認を行い、細目に医療記録に記録を行っている。その際には情報の共有と相談を行い、必要に応じては主治医への相談もして頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際、職員が面会し御本人の状況を把握すると共に、看護師・ケアワーカーと情報交換を行い早期退院できるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に「重度化及び看取りに関する指針」を定め終末期や延命治療に対する意向も御本人・御家族・医師・うさぎの家にて十分に話し合い協力して取り組んでいる。	重度化・終末期にかけてのホームの指針を明文化しており、本人家族に説明を行っている。ケアの一つひとつに、家族の意向や希望を確認して同意をとり、昨年は医療機関等と連携して数名の看取りを行った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルに基づき、対応方法に付いて備えている。 普通救命講習を受講している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立会い指導の基、訓練を実施。マニュアルに基づき指揮命令系統を身に付け、地域住民への働きかけも日常の延長で協働体制にある。	昨年は全職員が身に着くようにと、あらゆる災害を想定して16回の避難訓練を実施した。そのうち2回は消防署の立ち合いで行われた。災害ごとの連絡体制のマニュアルも作成され、災害に対する意識が高い。また現在、法人として地域住民との協力体制づくりに力を入れているところである。	

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の尊厳を傷つけるような声掛けや対応は絶対にしないという共通認識はスタッフ間で確立している。	思いやりの心を持ち「させていただく」という思いで接するようにしている。声掛けや返事の仕方には特に気を配って対応をして、管理者、職員間で確認し合いながら利用者の尊厳を守っている。また、「センター方式」の記入を全職員が始めたことで、利用者の立場に立った声かけが増えたという成果もあがった。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	御利用者のペースに合わせた声掛けで力が発揮出来るように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ボランティアの受入れ、介護相談員の訪問、保育園児との交流が計画に沿って行われている。特に予定の無い日は、天候や入居者の希望に基づいて過ごし方を決めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	御本人と一緒に衣類を選び、鏡の前で身だしなみを整えられるような支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物を自分達の手で作るという方針に基づき、調理に参加して頂いている。食材も近所より差入れされた野菜を用いる事もある。買物も入居者・スタッフが一緒に行うので食材選びを楽しむ事ができる。配膳・食器拭きなども出来る部分を入居者が担っている。	献立は職員が主になり利用者の希望を取り入れて作成し、配膳や盛り付け等も職員と一緒にやっている。週2回の買い出しと、足りない物があれば利用者とその都度、出掛けている。イベント時は特別注文のお弁当を頼んだり、誕生日には本人の好きなメニューを提供して楽しんでもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の1日の食量・水分量は記録されており、全てのスタッフが確認している。必要に応じて看護師にも相談している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨き・入れ歯の手入れ等、個別対応し、定期的又は必要に応じて訪問歯科の利用を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を利用したり、入居者の表情を読み、さり気なくトイレにお誘いし、トイレでの排泄に向けサポートしている。	介護度が上がり、現在は夜間ポータブルトイレの人が多くなってきているが、日中はトイレでの排泄を支援し、一人ひとりに合わせて対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を利用して、1人1人の排便チェックを行っている。状態に応じて牛乳を飲んで頂いたり、便秘薬の利用等、個別に対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	状態に応じていつでも入浴出来る様支援している。	個々の希望をとりいれ、希望がない人でも最低で週2回の入浴を実施している。時間帯は出来る限り希望を叶えるようにしている。利用者の状態により職員が2人体制で対応する場合は、職員シフトの可能な時間帯で支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の気持ちを尊重し、自室でゆっくり休んで頂いたりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフが管理し、確実に服用しているかチェックしている。2～3週間に一回の訪問診療の際に症状・状態の変化を報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	女性入居者は洗濯物の取り込み・たたみを手伝っている。アセスメントを通して出来る事・好きなことを把握しており、個々に合わせた楽しみや役割支援をしている。書道や料理が得意な人等様々である。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な買物や近隣の散歩、併設事業所への交流・訪問等、外出の機会はあるだけ多く作っている。入居者と家族と一緒に外出出来るような工夫も行っている。	天気の良い日は散歩に出かけ、食材の買い出しや孫へのプレゼントの買うなど、日常的に外出している。現在ホームの一部を改築中であり、いつも行っていたウッドデッキでの日光浴が出来ないが、その中でも職員は利用者の安全を確保しながら、気分転換になる外出を支援しようとしている。また、同系列のグループホームと合同で日帰り旅行にも出かけている。	

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物に行った際に、ご自分で好きな物を選んで頂き、レジで支払いが出来るよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	出来る限り御家族に葉書を書いて頂いたり、電話でのやり取りをして頂き、ご家族との関係を保持して頂けるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの前はウッドデッキになっており、好天気にはデッキで開放的に食事やお茶を楽しむ事が出来る。リビングは採光も通風も心地よく、日常はリビングでTVを観たり、音楽を聴いたりして過ごす人が多い。壁には入居者の写真や書道・花が飾られ、楽しい雰囲気を漂わせている。	トイレや居室にはわかりやすいような表示をし、利用者の混乱を防いでいる。リビングには利用者の習字や折り紙等、季節の作品や写真が貼られる。夏場は居室やリビングの窓にすだれをかけて温度調節を行い、冬場は加湿器で湿度調節をするなど、心地よく過ごせるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人掛けのソファーや椅子、二人掛けソファー等を配置し自由に過ごせるよう工夫を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	洋風のクローゼットとエアコンが備え付けになっている他は、使い慣れた家具や調度品・額等を持ち込み、自分の好きな生活空間を作っている。ベッドも持ち込みだが、介護用ベッドが必要な入居者には当施設にてリースのベッドを用意している。	使い慣れた家具などを持ちこんでもらっており、家族などの写真を壁一面に飾っている人もいる。ベット、布団と寝具もさまざま、本人と家族、職員で協力して、居心地の良い居室を作っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の居室には目印のネームプレートを掛けたり、トイレや浴室にも目印のプレートを貼っている。床も滑り難いようにカーペット敷きにしたり手摺も設置している。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所